

## 令和5年度 特別支援学校寄贈物品 使用状況報告書 【1年目】

P T A名	静岡県立沼津聴覚特別支援学校 P T A					
学 校	対 象	<input type="checkbox"/> 視覚障害	<input checked="" type="checkbox"/> 聴覚障害	<input type="checkbox"/> 知的障害	<input type="checkbox"/> 肢体不自由	<input type="checkbox"/> 病弱
	設 置 部	<input checked="" type="checkbox"/> 幼稚部	<input checked="" type="checkbox"/> 小学部	<input checked="" type="checkbox"/> 中学部	<input checked="" type="checkbox"/> 高等部	
	全校児童・生徒数	27人				

### 1. 使用状況

寄贈物品名	電子黒板（ディスプレイ型）
使用学年及び人数	中学部1年 3人
使用頻度	毎日 各教科で使用
使用状況	<p>英語: デジタル教科書の提示、ホワイトボード機能の使用。ヒアリング試験のための字幕データの提示</p> <p>社会: 資料の提示、PDFデータへペン機能を活用した書き込み、生徒の発表データの提示、白地図データの活用。インターネットの動画の視聴</p> <p>道徳: クラウドデザインツール(Canva)を活用して、生徒同士の意見共有</p> <p>国語: 教科書データの提示、ペン機能を使って、本文への書き込みを残す</p> <p>家庭科: 教科書データの提示、インターネット上での調べ学習の共有</p> <p>総合的な学習の時間: Google ドキュメント等を使った共同作業時の画面表示</p> <p>生徒会活動: 提案事項のプレゼンテーション</p>
物品の使用による変化や効果	<p>聴覚・視覚の重複障害の生徒は資料等の拡大、印付け等を行うことで、学習している部分、提示している部分を見失わず、確認することが容易になった。ホワイトボード機能の板書についても、部分的に拡大をしたりすることで、細かい部分も明確に見せることができ、生徒自身の気付きにもつながった。</p> <p>生徒が調べ学習等の発表場面に活用する際に、ペン機能を使って、強調線を引いたり、言葉を囲むなど、プレゼンテーションに関する創意工夫をする姿が見られるようになった。</p> <p>学習の過程をデジタルで残し、クラスルームなどを活用して、生徒個々に返すことにより、家庭学習の資料としたり、板書を待つ時間の縮小ができた。</p>
今後の活用の見通しや課題	<p>ギガスクールに向けて、タブレットや教材の活用ができた。</p> <p>視覚教材を適所で活用することで、生徒の理解や興味関心の深まりが見られた。</p> <p>タブレットやクラウドのツールを併用することで、生徒同士の伝え合いが活発になった。</p> <p>今後の活動の見通しとしては、どの教科でも使えるよう、教員同士の活用方法の共有やICT活用力の向上を図っていきたい。</p>
その他希望や所感など	<p>教材研究の大きな手助けとなった。効果的な活用場面を考え、授業展開の工夫を行ったり、より完成度の高い、生徒の興味関心を引く教材を準備したりする等、教員の積極的な自己研修にもつながったと感じる。また、周辺機器や、ツールなどを準備することができれば、より、便利になると思われる。</p>

## 2. 活用の様子



道徳の学習中、それぞれの意見をクラウドデザインツールを活用して、データ上で書き出しし、クラスメイトの意見を聞き合う学習を行った。文字として書き出すことで、自分の考えを確認したり、友達の見解をじっくりと読み、発表している言葉の理解の補助として活用したりしている。意見の書かれたデータ上の付箋を操作することで、考えを分類したりして、多様な考え方、相手の立場に立った物の考え方などに気づき、話し合いを深めたりした。



英語の学習中、英語の会話文を提示している。タッチペン機能を使うことで、目の前で、大文字で表記する部分などを強調している。聴覚・視覚の重複障害の生徒に対して、文字の大きさや使用する色などに配慮しながら活用している。



生徒会活動で学習発表会のスローガンの掲示作りについての提案をしている。自分で考えたアイデアを写真に撮って、提示し、「このように作るのいいと思います。」などのプレゼンテーションとして活用していた。